

教員紹介

| | | |
|---|--|---------------------------------------|
| 氏名 | ひらがな | 職位(教授/准教授/講師/助教/助手) |
| 稲永 努 | いななが つとむ | 講師 |
| 所属(大学・学部・学科名等) | (専攻・コース) | |
| 長崎短期大学 保育学科 | 保育専攻 | |
| 教育モットー(学生へのメッセージ) | | |
| 学生生活や実習などで躓いたことを一緒にふり返り、さらなる成長へ向けたお手伝いができればと思っています。 | | |
| 担当科目 | | |
| 臨床心理学 | 子どもと暮らし | 保育内容演習Ⅰ(人間関係) |
| 卒業研究Ⅰ・Ⅱ | 保育実践演習(教職実践演習) | 保育スキルアップ講座(教養) |
| 保育内容(人間関係)研究(専攻科) | 心理学(歯科衛生士学院) | |
| 専門分野(学問分野/専攻) 臨床心理学 | | |
| 研究テーマ(研究領域) | 不登校 | 社会的引きこもり スチューデントアパシー ピアサポート |
| 所属学会 | | |
| 日本心理臨床学会 | 日本教育心理学会 | 日本人間性心理学会 等 |
| 学歴・学位・免許資格 | | |
| 平 16 年 3 月 | 山口大学教育学部学校教育教員養成課程社会科選修 卒業 | |
| 平 18 年 3 月 | 山口大学大学院教育学研究科学校臨床心理学専修 修了 修士(教育学) | |
| 平 18 年 3 月 | 小学校教諭二種免許 中学校教諭専修免許(社会) 高等学校教諭専修免許(地理歴史) | |
| 平 18 年 12 月 | 臨床心理士 | |
| 職歴 | | |
| 平 18 年 4 月 | 山口県立大学 学生相談室カウンセラー (ピアサポーター指導 兼務) | (平 23 年 3 月まで) |
| 平 18 年 4 月 | 山口県スクールカウンセラー (小学校、中学校、高等学校) | (平 24 年 3 月まで) |
| 平 21 年 4 月 | 山口県萩看護学校 非常勤講師 (心理学) | (平 24 年 3 月まで) |
| 平 22 年 4 月 | 山口市教育委員会 教育相談スーパーバイザー | (平 24 年 3 月まで) |
| 平 24 年 4 月 | 長崎短期大学保育学科 講師 | (現在に至る) |
| 研究業績 | | |
| | 著書、学術論文等の名称 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等 |
| 平 20 年 3 月 | 思春期不登校児の援助において生起する関係性の変容過程—家庭教師カウンセラーによる寄り添いと向き合いの関わりを通して— | 山口大学心理臨床研究 第 8 巻 27-39 |
| 平 21 年 3 月 | スクールカウンセラーによる家庭訪問から教室復帰後までの支援過程—関係性の変容過程と不登校支援ネットワークの変遷— | 山口大学心理臨床研究 第 9 巻 31-43 |
| 平 21 年 4 月 | 『青年期の危機とケア』(分担執筆) 第 4 章「社会的引きこもりとスチューデントアパシー」 第 9 章「ピアサポート」 | ふくろう出版 |
| 平 22 年 3 月 | 大学における新入生支援としてのピアサポート活動—立ち上げの 2 年間をめぐる考察— (共著) | 山口県立大学社会福祉学部紀要 第 16 号 29-44 |
| 平 22 年 3 月 | ピアサポート・グループの凝集性を高める 3 要因 | 山口県立大学社会福祉学部紀要 第 16 号 45-56 |
| 平 23 年 3 月 | 不登校児への援助方法を包含する関係性変容過程仮説の検討 | 山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センター紀要 第 2 巻 21-29 |
| 平 23 年 9 月 | 「現代型不登校」児への援助の検討—関係性変容過程仮説に基づいた援助方法を用いて— | 日本心理臨床学会 第 30 回大会 (口頭発表) |
| 社会における活動等 (学会・研究会等の委員・役員/講演会/社会貢献/表彰/他) | | |
| 平 18 年～ | 研修会・講演会における講師 計 47 件 (不登校・子育て・特別支援・ストレスケア・カウンセリング技法など/ 山口県教育委員会主催研修会など) | |
| 平 19 年 4 月 | 山口県教育委員会 不登校に係るワーキンググループ会議委員 | (平 24 年 3 月まで) |
| 平 21 年 4 月 | 山口県臨床心理士会 スクールカウンセラー山口・防府地区委員 | (平 24 年 3 月まで) |
| 平 25 年 4 月 | 長崎県スクールカウンセラー(佐世保中央高校 昼間部・夜間定時制・通信制) | (現在に至る) |